

2021年度 自己点検・評価チェックシート 学部・研究科名：創造理工学研究科

※学部・研究科ごとに作成してください。

確認事項1 3つのポリシー		
(1) 3つのポリシーを教授会・運営委員会等で確認した	☒ 確認した	2021 年 7 月 会議名：学術院運営委員会
	☐ 確認していない	年 月 確認予定
(2) 3つのポリシーは学生や社会に公表されている	☒ 公表されている	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 公表されていない	公表予定時期：

確認事項2 学修成果		
(1) 学修成果を設定している	☒ 設定している	⇒確認事項(2)、(3)を記入
	☐ 設定していない	年 月 設定予定
(2) 学修成果の内容	☒ 各学部・研究科の DP と関連付けて設定している ☒ 複数の方法で根拠に基づいて測定することが可能である ☒ 知識、スキル、態度をバランスよく含んでいる ☒ 「学生は、～することができる」といった形式にするなど、わかりやすく記述している	
(3) 学修成果を明示している	☒ 明示している	☐ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 明示していない	年 月 明示予定

【創造理工学研究科・建築学専攻】修士（建築学）、博士（建築学）、修士（工学）、博士（工学）

本専攻は、自然環境や歴史・風土と共生する豊かな生活環境を社会に提供していく立場から、地域固有の多様な伝統と文化に根ざした広義の「建築デザイン」を実践する、世界的視野を有する建築家、エンジニアおよび研究者を育成し、世界に誇れる建築文化を確立することをめざしている。「建築デザイン」とは芸術と工学を融合した総合的なデザインを意味する。そこには、地域を構成する「人」「建築」「都市」「自然」が有機的に関連しあいながら、年月とともに調和のとれた生活環境を形成していくための、意匠設計、修復・保存再生、まちづくり等の安全性と持続可能性を担保した多様な活動が含まれる。この目標の実現のため、建築史・建築計画・都市計画の研究指導を行う建築芸術分野と環境工学・建築構造・建築生産の研究指導を行う建築工学分野のそれぞれに専門家が結集し、多様かつ高度な専門教育・研究指導を提供する。そして修士課程において、教員の研究指導のもとで研究を行い、研究成果を修士論文としてまとめあげる。修士論文の審査を行い、建築芸術分野においては、芸術の観点から建築を総合的に探究する知識と能力を有すると認められた場合に修士（建築学）の学位を授与する。建

築工学分野においては、工学の基礎知識を応用する技術と能力を有すると認められた場合に修士（工学）を授与する。博士課程においては、研究指導のもとで独創的な研究を行い数編の論文を国際誌・学会などで発表し、研究成果を博士論文としてまとめあげる。博士論文の審査において、建築学の幅広い知識を備え、応用を実現する技術と能力を有すると認められた場合に博士（建築学）の学位を授与する。工学の幅広い知識を備え、応用を実現する技術と能力を有すると認められた場合に博士（工学）の学位を授与する。具体的には次に挙げる学修目標に到達した学生に、以下の学位を授与する。

修士（建築学）：芸術の観点から建築を総合的に探究する知識と能力を有する。

博士（建築学）：建築学の幅広い知識を備え、応用を実現する技術と能力を有する。

修士（工学）：工学の基礎知識を応用する技術と能力を有する。

博士（工学）：工学の幅広い知識を備え、応用を実現する技術と能力を有する。

学修成果 1.（共通）「早稲田建築」の伝統に学び、現代社会が建築・都市・環境に求めるものに応える能力を培う

学修成果 2.（共通）地球的視野と地域固有の歴史風土を理解する視点を併せもち、国際的なフィールドで貢献する能力を養う

学修成果 3.（建築芸術分野）建築・都市デザインの実務に触れる機会を持ち、建築家および関連する職能と、その現代社会において果たすべき使命を理解する

（建築工学分野）建築・都市デザインおよびエンジニアリングの実務に触れる機会を持ち、関連する職能と、その現代社会において果たすべき使命を理解する

学修成果 4.（建築芸術分野）建築・都市デザインの芸術性および歴史性に関する深い知識に基づいて、創造的な提案をする能力を身につける

（建築工学分野）建築・都市デザイン、芸術、歴史、およびエンジニアリングに関する深い知識に基づいて、創造的な提案をする能力を身につける

学修成果 5.（建築芸術分野）建築・都市および関連分野の、先端的な知識を積極的に吸収する能力を培う

（建築工学分野）建築・都市および環境、構造、生産分野の、先端的な知識を積極的に吸収する能力を培う

学修成果 6.（建築芸術分野）建築・都市および関連分野の既往の知見に基づき、生活や地域に根差して幅広く課題を発見し、調査・分析する能力を培う

（建築工学分野）建築・都市および環境、構造、生産分野の既往の知見に基づき、生活や地域に根差して幅広く課題を発見し、調査・分析する能力を培う

学修成果 7.（建築芸術分野）教員および学生相互の協働作業を通して、建築設計・計画の問題を実践的に解決する能力を培う

（建築工学分野）教員および学生相互の協働作業を通して、建築に関する問題を実践的に解決する能力を培う

学修成果 8.（共通）自らのアイディアを広く社会に提案し、異分野の専門家、ならびに一般市民との協働の中でリーダーシップを発揮する能力を培う

【創造理工学研究科・総合機械工学専攻】修士（工学）、博士（工学）

様々な学術的・社会的課題の解決に不可欠な基礎知識と専門知識を統合し、現代社会が抱える諸問題を機械工学観点から解決するための実践的教育・研究を行う。その上で、修士（工学）に関しては、機械工学の専門分野における知識と研究の推進が十分であると認められるものに与えられる。また、博士（工学）に関しては、機械工学における十分な知識を有する上で、学術的な貢献が十分であると認められるものに与えられる。

学修成果 1. 修士論文、博士論文として、学術的価値のあるものに仕上げる。特に、博士論文としては、査読を有する論文を規定の本数以上掲載する。

学修成果 2. 関連論文を読んだ上で、問題点を把握し、学術的価値のある研究を推進する。その上で、剽窃の問題がない修士論文・博士論文をまとめる。

学修成果 3. 指導教員からの指導を受けながら、推進している研究をまとめ、分かりやすくプレゼンテーションする能力を獲得する。

学修成果 4. 社会的問題に取り組むために必要な先進的専門知識を獲得する。また、最先端の専門科目を多数用意しており、将来のなりたい技術者像にあわせて科目を選択し、知識を獲得する。

学修成果 5. 研究指導、演習科目を通じて、研究推進に直接必要な知識を獲得しつつ、研究計画を立て、自主的に研究を推進する。

学修成果 6. 修了後に様々な社会的問題を自主的に解決できるように、必要な知識を獲得するだけでなく、大学院の課程を通じて、研究を主体的に推進する力を身につける。

【創造理工学研究科・経営システム工学専攻】修士（工学）、博士（工学）

現代社会において人々の生活は、社会・技術システムに高度に依存している。経営システム工学専攻では、それら発展する社会・技術システムの設計、開発、維持、運用に関わる技術を扱い、地球社会に貢献できる人材を育成する。修士課程においては、対象とする社会・技術システムに関する問題をマクロ・メソ・ミクロの多様なレベルから捉え、その解決策を構想する能力を培うとともに、そのシステムの効果的、効率的な機能を実現するための、人・物・設備・金・情報といったシステム構成要素（経営資源）の有効活用のための設計方法論と技術の習得、及び、そのための研究開発を目標とする。博士課程においてはこれらをさらに発展させ、専門分野の最先端の知識と技術を習得するとともに、創造的に分野を切り開き世界で活躍できる研究者・技術者の育成を目指す。

学修成果 1. 社会・技術システムの設計、開発、維持、運用の重要性を知る

学修成果 2. 人・物・設備・金・情報などの経営資源の有効活用の技術を身につける

学修成果 3. 多様な視点で問題を捉えその解決策を構想・構築する力を培う

学修成果 4. 進取の精神を持って、経営システム工学に関わる諸技術の研究開発の力を培う

学修成果 5. （さらに博士課程においては）対外的な学会・実務活動に積極的に関わり卓越した成果を上げる能力を培う

【創造理工学研究科・経営デザイン専攻】修士（経営工学）、博士（経営工学）

これからの事業経営では、今まで以上に先端技術に基づいた新事業開発およびそのマネジメントや、既存事業を経営環境変化にいち早く対応させる変革力と、そのオペレーションの改善力が求められる。経営デザイン専攻では、日本の競争力の源泉である価値創造産業の事業経営リーダーの育成を目的とする。修士課程では、全教員の研究指導の下で経営工学に関連するテーマについて研究を行い、その成果をまとめた修士論文の審査を行い、事業経営リーダーに必要な能力を有すると認められた場合に、修士(経営工学)の学位を授与する。博士課程では、全教員の研究指導の下で経営工学に関連するテーマについて研究を行い、その成果を

まとめた博士論文の審査を行い、学術的にも実務的にも、事業経営リーダーに必要な高度な能力を有すると認められた場合に、博士(経営工学)の学位を授与する。

学修成果 1. 他者に言いたいことを伝える能力、他者の言いたいことを理解する能力を身につける。

学修成果 2. 問題発見能力、問題解決能力を身につける。

学修成果 3. 価値創造事業の経営に必要な基礎知識を身につける。

学修成果 4. 研究開発成果の商品化・事業化のマネジメントを行う能力を身につける。

学修成果 5. 事業オペレーション改革マネジメントを行う能力を身につける。

学修成果 6. 学修成果 1～5 を国際社会で発揮できる能力を身につける

【創造理工学研究科・建設工学専攻】修士（工学）、博士（工学）

建設工学は、人々が安全かつ快適に健康で文化的な生活を営むことができるように、社会基盤造りを行うための学問である。それは、単に都市を構築し、道路や鉄道などの交通施設や、電気や水道などのライフラインを整備することにとどまらない。昨今は、歴史的環境や自然景観などに配慮した総合的な生活空間の創造や、地球規模の自然環境再生が建設工学に課せられた重要なテーマになっている。さらには、既存の基盤施設を効率的に維持・管理するための技術開発や、ハード・ソフト両面から防災力に優れた都市へ更新してゆくことは、建設工学で取り組まれるべき課題である。建設工学専攻では、社会基盤部門、環境防災部門、および計画・マネジメント部門のそれぞれの専門家が結集し、社会が要請する様々な課題にこたえとともに、安全・安心な、そして豊かさと快適さを実感できる社会を新たに創造していく、指導的人材の育成のための多様かつ高度な専門教育を提供している。また、修士課程においては、教員の指導のもとで研究を行い、研究成果を修士論文としてまとめ上げる。修士論文は、審査を行い、建設工学の基礎知識を応用する技術と能力を有すると認められた場合に、修士（工学）を授与する。博士課程においては、教員の研究指導のもとで新規性・独創性のある研究を実践し、論文を国内外のジャーナル・学会などで発表し、研究成果を博士論文としてまとめあげる。博士論文の審査において、建設工学の幅広い知識を備え、応用を実現する技術と能力を有すると認められた場合に、博士（工学）の学位を授与する。

学修成果 1. 現象の根源的な構造を解明し理論化する数理能力を有し、複雑な要請や条件を「かたち」や制度にまとめあげる設計や計画能力を身につけ、それを論文等により対外的に発表する能力を有する。

学修成果 2. 国内外の社会基盤に係る様々な問題を理論的・実験的に解明し、独創的な発想を持って新たな考え・方法を構築し、それをまた社会へと還元することができる実行力・コミュニケーション力を身につける。

学修成果 3. 高い技術者倫理を有し、持続可能型未来の創造に寄与することができる。

学修成果 4. 主体的に問題を解決する能力と、分析力・思考力・推論力を活かした総合判断力を身に付け、未来の科学技術に貢献し、世界の様々な問題の解決

にあたることができる

【創造理工学研究科・地球・環境資源理工学専攻】修士（理学）、博士（理学）、修士（工学）、博士（工学）

修士課程においては、地球科学、地質学における様々な研究課題あるいは、社会が直面する資源と環境の多種多様な問題について、現場調査・実験・分析・数値解析とそれらの多面的な解釈・評価を行い、総合的な考察や解決策の提案ができる能力を身につける。地球的視点、学術研究・技術者倫理、コミュニケーション能力、国際性を身につけ、多様な価値観に基づき、リーダーとして地球科学に関する研究・技術開発（修士（理学））、また、環境と調和した資源開発、様々な地域および全地球規模の環境問題の解決に貢献する能力（修士（工学））を修得したと認められるとき、修了を認定し、学位を授与する。博士課程においては、それらをさらに発展・深化させ、人類社会の持続的な活動を実現するための高度な地球科学の研究能力（理学）や、数学・物理学・化学・生物学・地球科学を基にした資源・環境問題に対する研究開発能力（工学）を会得する。そして、それらを有しているかを審査し、さらには、専門分野に留まらない総合的かつ高い倫理的思考力と品格を持ち、博士（理学）および博士（工学）にふさわしいと判断される場合に学位を授与する。

学修成果 1. 多次元な地球的視点の育成地球的視点、すなわち、地球の内部・表層（対流圏を含む）の空間、さらには歴史という時間軸も加え、地球全体を多次元的にを見据えたグローバルスケールで、地球、資源および環境問題を捉える能力を育成する。

学修成果 2. 現場・実験（実学）の徹底フィールド調査を主体的に立案し、様々な物理および化学計測、サンプリングの実施と指導を適切に行うことができる能力を育成する。また、フィールドで採取した岩石・鉱物などの地球科学試料、大気・水・土壌などの環境試料、廃棄物、等の前処理法を含めて、非破壊および破壊の様々な機器分析技術を発展させ、指導する能力も身につける。

学修成果 3. データ解析能力の涵養得られたデータを「仮説発見型」と「仮説検証型」の二つの視点から解析する能力を発展させ、地球科学・地質学、資源探査・開発、リサイクリング、気候変動など複雑な事象を定式化し、メカニズムの解明や将来挙動予測を適切に行うために必要となる実戦的なプログラミング・数値計算能力を身につける。

学修成果 4. コミュニケーション能力の育成フィールド調査、教員・スタッフ・学生同士・外部との議論、さらに学会発表などを通じてコミュニケーション能力を発展させ、議論の牽引、実験・調査の指揮・指導、学会発表における積極的な情報発信など、地球科学および資源・環境問題の研究・技術開発におけるリーダーとして活躍する能力を身につける。

学修成果 5. 国際性の修得国外での調査・研究、海外資源の探査・開発、国境を越えた地球規模の環境問題などに対応すべく、海外調査、学会発表、留学生との交流などを深め、世界で活躍が期待できる人材を育成する。

学修成果 6. 研究立案・評価能力の育成研究の遂行においては、その背景や社会的環境、研究意義を十分に把握し、それに則った研究計画の立案、成果の評価を行なえる能力を身につける

<3つのポリシー・カリキュラム・入試制度の変更>

※2020 年度4 月以降に変更を決定した項目があれば記載してください。本チェックシートの別項目で記載している場合は不要です。

項目	変更時期	変更内容	変更理由

※以下は該当する学部・研究科のみ記載

確認事項 3-2 2020 年度認証評価における指摘事項への対応② 指摘事項： 学位授与方針を授与する学位ごとに定めていない		
該当箇所： 基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部、経済学研究科、法学研究科、基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科、環境・エネルギー研究科修士課程、人間科学研究科修士課程		
(1) 指摘事項への対応を行った	☒ 対応した	2021 年 7 月 会議名：学部・研究科運営委員会、学術院運営委員会 ⇒(2)(3)を記入
	☐ 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の学位授与方針を公表している	☒ 公表している	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 公表していない	公表予定時期：
(3) 変更後の内容 学位課程ごと・学位ごと（学科専攻別）に制定した ※学科専攻別の公表は HP のみとする 確認事項 2 参照		

確認事項 3-4 2020 年度認証評価における指摘事項へ対応④ 指摘事項： 教育課程の編成・実施方針を学位課程ごとに設定していない。		
該当箇所： 政治学研究科、法学研究科、文学研究科、商学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科、環境・エネルギー研究科、社会科学研究科、人間科学研究科		
(1) 指摘事項への対応を行った	☒ 対応した	2021 年 7 月 会議名：研究科運営委員会、学術院運営委員会 ⇒(2)(3)を記入
	☐ 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の教育課程の編成・実施方針を公表している	☒ 公表している	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 公表していない	公表予定時期：
(3) 変更後の内容 学位課程ごと・学位ごと（学科専攻別）に制定した ※学科専攻別の公表は HP のみとする		

確認事項 3 - 5 参照

確認事項 3-5 2020 年度認証評価における指摘事項へ対応⑤ 指摘事項： 教育課程の編成・実施方針を授与する学位ごとに定めていない。

該当箇所： 教育学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部、経済学研究科、法学研究科修士課程、教育学研究科、基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科、環境・エネルギー研究科修士課程、人間科学研究科修士課程、経営管理研究科

(1) 指摘事項への対応を行った	☒ 対応した	2021 年 7 月 会議名：学部・研究科運営委員会、学術院運営委員会 ⇒(2)(3)を記入
	☐ 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の教育課程の編成・実施方針を公表している	☒ 公表している	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 公表していない	公表予定時期：

(3) 変更後の内容

学位課程ごと・学位ごと（学科専攻別）に制定した

※学科専攻別の公表は HP のみとする

【創造理工学研究科・建築学専攻】

〔修士（建築学）に対するポリシー〕 建築芸術分野は、建築の変革と創造の理論を歴史的に考究する建築史、建築における現代の創造そのものを命題とする建築設計・計画、建築の集合としての都市に視点をあてる都市計画の、それぞれが各々の命題と研究方法の独自性を持ちつつ、修士課程においては、専門的深化に閉ざされず、建築に対する計画者としての広い視野と高い見識の養成を等しく目標としているのが特質である。修士論文、修士設計において、互いに関連し合う計画系一般としての主題が許容されているのは、この反映である。

〔修士（工学）に対するポリシー〕 建築工学分野は、それぞれ独自の性格をもつ。環境工学は、建築・都市における快適で健康な環境と建築設備システムの計画法、地震や火災、水害等の災害と建築の理論化と防災計画・技術の開発、脱炭素社会に向けた省エネルギー技術開発、環境影響評価や合意形成技術、普及策等のソフト技術の開発と計画論に取り組んでいる。建築構造では、構造材料、耐震構造、弾塑性力学、曲面構造、地盤・基礎工学、振動工学、構造制御、制震（振）構造、免震構造など、建築構造の基礎から構造設計への応用に亘る広い範囲の専門的科学技术を学ぶ。建築生産では、建築材料における新技術応用としての新素材の特性と用法、建築構造法各種の異なる目的に対応した建築構法やディテールの開発、建築生産システムと施工管理技術の開発などの実務に直結した課題に取り組む。上記に掲げる知識や技術を修得されるため、専門的な講義や演習、それらを総合する研究室での実践的な活動への参加機会提供と研究指導を行う。

【創造理工学研究科・総合機械工学専攻】

様々な現象が絡み合って、現代の社会的問題が発生している。このような問題に取り組むための高度な構想力と実践力、論理構成力を有する開発エンジニアを育成するための教育を展開する。具体的には、先進的専門知識の蓄積、その活用を図る応用力の育成、プレゼンテーション力の向上を目指す。この集大成として、修士論文・博士論文において、取り組むべき課題を設定し、各種専門知識を活かして解決に向けて取り組む。

【創造理工学研究科・経営システム工学専攻】

経営システム工学の対象とする社会・技術システムに関する正しい理解を身につけると同時に、その設計、開発、維持、運用に関わる諸領域の知識・技術の習得、さらにそれら経営システム工学に関わる諸技術の研究開発のための力を培う。修士課程では、講義を通して骨格となる知識や技術を習得し、ゼミや研究活動を通して知識や技術のさらなる習得と問題分析や解決策構想の力を育成する。博士課程ではこれらに加え、対外的な学会・実務活動に積極的に関与することで研究開発や問題解決の能力を育成する。

【創造理工学研究科・経営デザイン専攻】

教育目標を達成するため、講義科目を中心とした価値創造に関わる知識・技術を習得させる。また、この知識・技術を実践で活用できるように、演習・ケースに重点を置いた科目により、問題発見・課題解決能力を習得させる。さらに、ビジネス構想・構築プロセスを疑似体験するプロジェクト研究演習(ProjectBasedLearning)により、実践力を習得させる。これらの講義・演習において、グループワーク、グループ討論を多用し、チームマネジメントとリーダーシップを養う。研究指導では、所属研究室での指導とともに、他研究室の教員、学生との研究に関する討論の場を設け、幅広い視点を身につけることによる研究能力の向上を図る。

【創造理工学研究科・建設工学専攻】

建設工学専攻修士課程では、社会基盤部門、環境防災部門、および計画・マネジメント部門に係る応用的・実践的な講義・演習が提供される。講義や演習、さらにはその中での教員との討論を通じて、建設工学に係る国内外の諸課題の解決に向け、自ら解析、実験、あるいはフィールドワークを計画・遂行し、その結果を説明できる、あるいは、その結果に対して多面的なものの見方ができる能力を育むとともに、複雑な要請や条件を「かたち」や制度にまとめあげる設計・計画能力などを育成する。その際には、単に現世代のニーズを満足するばかりでなく、将来世代の社会を損なうことのない持続可能な未来を構築する視点を授けている。建設工学専攻博士課程では、極めて高度な知的総合力を持った技術者として、社会基盤の整備や維持管理、また地球環境との調和や持続可能社会の創造に対して技術的側面から貢献するための専門教育が提供される。高い倫理観に加え、創造力、総合力、および国際力を備えた指導的人材のポテンシャルを有し、建設

【創造理工学研究科・地球・環境資源理工学専攻】

確認事項 3-7	2020 年度認証評価における指摘事項へ対応⑦	指摘事項：	学生の受け入れ方針を学位課程ごとに設定していないため、これを定め公表するよう是正されたい。
----------	-------------------------	-------	---

該当箇所：政治学研究科博士後期課程、経済学研究科、法学研究科、基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科、環境・エネルギー研究科、社会科学研究科、スポーツ科学研究科

(1) 指摘事項への対応を行った	☒ 対応した	2021 年 7 月 会議名：研究科運営委員会、学術院運営委員会 ⇒(2)(3)を記入
	☐ 対応していない	年 月 対応予定
(2) 対応後の学生の受け入れ方針を公表している	☒ 公表されている	☒ 要項 ☒ HP ☐ パンフレット ☐ その他 ()
	☐ 公表されていない	公表予定時期：

(3) 変更後の内容

学位課程ごとの表現の追加

早稲田大学では『学の独立』の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、我が国をはじめ世界から多数迎え入れる。

修士課程においては、建築学、総合機械工学、経営システム工学、経営デザイン、建設工学、地球・環境資源理工学などに関する基礎能力、専門的に深く、同時に広い視野から学ぶための基礎知識が求められる。博士後期課程においては、上記の修士号取得に必要な能力を備え、現代社会の諸問題を科学技術の観点から解決

し、真に豊かな社会創造に貢献できるための高い専門性、経験、理論、意欲を有することが求められる。

確認事項 3-9	2020 年度認証評価における指摘事項へ対応⑨	指摘事項：	研究指導計画として研究指導の方法及びスケジュールを定めていないため、これを定めあらかじめ学生に明示するよう是正されたい。
----------	-------------------------	-------	--

該当箇所： 商学研究科修士課程、商学研究科博士後期課程、基幹理工学研究科修士課程、基幹理工学研究科博士後期課程、創造理工学研究科修士課程、創造理工学研究科博士後期課程、先進理工学研究科修士課程、先進理工学研究科博士後期課程、環境・エネルギー研究科修士課程、環境・エネルギー研究科博士後期課程、人間科学研究科修士課程、人間科学研究科博士後期課程、スポーツ科学研究科修士課程及びスポーツ科学研究科博士後期課程

(1) 指摘事項への対応を行った	☐ 対応した	年 月 会議名： ⇒(2)を記入 ※根拠資料未提出の場合は提出
	☒ 対応していない	2021 年 11 月 対応予定 会議体に付議、2022 年度要項に記載
(2) 対応後の研究指導計画を公表している	☐ 公表されている	☐ 要項 ☐ HP ☐ パンフレット ☐ その他（ ）
	☒ 公表されていない	公表予定時期：2022 年度研究科要項に記載予定

※確認事項 3-1、3-3、3-4、3-7、3-8、3-6、3-10 は該当なし